

第4次吉野町総合計画

「まちづくりの提案」募集結果について

平成22年4月

吉野町企画政策課

目 次

I. 「まちづくりの提案」実施概要

(1) 実施の目的	1
(2) 募集の期間	1
(3) 募集の方法	1
(4) 募集結果	1

II. 「まちづくりの提案」募集結果

1. 「産業・観光」に関する意見・提案	2
2. 「まちづくり」に関する意見・提案	6
3. 「医療・福祉」に関する意見・提案	7
4. 「安全・安心」に関する意見・提案	8
5. 「町政」に関する意見・提案	9
6. 「次世代育成」に関する意見・提案	10

参考：「まちづくりの提案」提案用紙	11
-------------------------	----

I. 実施内容

(1) 実施の目的

吉野町では、平成23年度から32年度までの10年間を計画期間とする新しい「第4次総合計画」を策定している。

総合計画は、長期的な展望のもと、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるための目標や施策推進の方向を示す指針となるものである。

この新しい総合計画の策定を住民と行政の協働により取り組むため、今後町が取り組むべき重点課題やまちの将来像などについて、「まちづくりの提案」の募集を行った。

なお、募集の結果については、総合計画策定審議会及び総合計画策定庁内会議等、総合計画の策定過程における基礎資料として活用する。

(2) 募集の期間

平成22年2月25日（木）～平成22年3月31日（水）

(3) 募集の方法

《広報》広報よしの4月号に「まちづくりの提案」提案用紙を折り込み配布したほか、町ホームページ、町ケーブルテレビの自主放送番組において広報を行った。

《募集》(i) 役場1階ロビー、吉野病院ロビー、国栖の里総合センター及び中竜門地域振興センターに設置する「提案箱」への投函による提出。

(ii) 郵送、Fax、Eメールまたは持参による提出。

(4) 募集の結果

「まちづくりの提案」の提案者数は7人、意見数は17件の提案があった。
年代別、分野別の募集結果は次の表のとおり。

年代別提案者数		分野別提案件数	
20代	1人	産業・観光	6件
30代	0人	まちづくり	4件
40代	0人	医療・福祉	2件
50代	1人	安全・安心	2件
60代	3人	町政	2件
70代	2人	次世代育成	1件

留意事項：提案内容は、分野別に整理を行い、原則として原文のまま掲載している。

II. まちづくりの提案内容

1. 産業・観光に関する意見・提案

●荒廃した里山の整理手入れにも参加を（徐間伐・枝打・下刈等）

現在の制度では 10a 以上同一場所での手入れしか補助金の対象にならない為、里山全般（手入れした山）を合せて補助の対象にして申請し、補助金の受領出来るようにする。

行政の担当課では参加労働者の労災保険や山林手入補助金の獲得申請等を行う。

又、出荷出来る間伐材やシイタケ用原木は出来るだけ売却する。補助金や原木売却代金を主体に考えて、山主（地主）にはほとんど負担をさせないように計らう。

参加労働者に対する対価としては、時給 700 円程度にすれば十分に採算は取れるのではないかと私は思う。

希望名称：里山整備隊（ボランティア（主に健康な 80 歳ぐらい迄の方））

行政対応先：吉野中央森林組合、町担当課、奈良県森林組合連合会等に依頼する。

以上、吉野林業振興の為に、又 CO2 削減のために。

【上市地区・70代・男性】

●吉野町へ、例えば奈良交通を利用しての観光。

例えば、吉野山、国栖のハイキングコース（3km、5km、10km）を作って、

（例）紙すき、割箸、ガラス工房などの見学、森谷しょうゆ、木工（森浦）、陶芸、案内人をつけて、観光してまわる。

例えば新子の清水ふれあいセンターで昼食をとってもらう。材料は地元でとれた野菜などを使って、お弁当のようなものを作る。

地元の活性化を希望する。

【国栖地区・60代・男性】

●町内各地域にアンテナショップ、県道筋に吉野町推奨物産販売所を設置

町内各地域にアンテナショップを開設し、町内各地域の住民が生産した農産物、加工食品、手工業品などの生産物を持ち込み販売出来るようにする。その運営は各地域の町づくり活動に参加している住民ボランティア(仮称:アンテナショップ運営委員会)に任せる。

ショップの目的は、

1. 地域で生産可能な物品の洗い出し
2. 持ち込まれた商品の販売
3. 消費者の意見を生産者にフィードバックし、生産者と共により良い商品化を検討

4. 日々取り扱う物品の中から、吉野町推奨物産として開発できる可能性のある候補品の発掘などであり、ショップ開設の付随的効果としては、地域住民の生産意欲の高揚、より良い物品生産のための有益情報交換場所の提供、地域の活性化、買い物難民の救済などが考えられる。

吉野町推奨物産販売所は、各アンテナショップ運営委員会代表で構成され、推奨物産の開発と販

売を行う。行政は、町民がより良い物産開発の成果を挙げるために、この販売所の活動を指導し、助言や必要に応じて専門家を交えた勉強会や相談会の機会を与えてこの活動を支援する。行政は、吉野町推奨物産に「吉野町推奨品マーク」を与える。

【吉野地区・60代・女性】

●杉・檜の植林面積を削減し、落葉樹林面積を増やす

吉野町独自の物産開発の本道は、吉野町独自の自然環境から得られる自然の恵みを生かすことである。これ以外の資源から得て作られたものは、吉野町以外の市町村でも入手できる物産であり、より熾烈な競争が強いられる。過剰な面積の杉・檜植林が占める現在の吉野町の森林では、本来の生物多様性が確保された自然は破壊されている。そのため、本来なら得られるべき非常に豊かな自然の恵みを損失している。

たとえば、ミネラル豊富な伏流水を利用し、こだわりの栽培法、例えば永田農法やその他の有機農法を用いて山間で育てられる米は高級米として取引されている。

また、このような米で昔ながらに丁寧に酒づくりした清酒は全国にゆるぎないファンを持つことができるであろうし、和菓子づくりの盛んな京都などの高級和菓子店にとって、100%国産のくず、わらび粉は喉から手が出るほど欲しい商品であろうと思われる。自生ゼンマイの自家製乾燥品は、スーパーなどの量産市販品とは比較にならないほど味が良いが、現在では商品にするほど自生していない。わらび、ウド、たけのこなどの自生の山菜、山野草、薬草も同様で、採取できるこれらの量や種類が非常に減少してしまっている。

緑が多いのに自然が豊かでない吉野町の森林。蛍、トンボ、蝶々、カブトムシ、玉虫などの昆虫の数も種類も少なくなってしまった田舎は、子どもにとっても魅力的な遊び場ではない。また、今の若者にとって自然と豊かに共生する人々の生活は新しく魅力的なライフスタイルであり、長野県などではすでにこれを売りにして若者をターゲットにした観光に生かしている地域もあるらしい。大人にとっても、吉野町にしか無い食べ物やお土産が豊富であれば、何度でも訪れたいと思う魅力的な観光地になるであろう。

【吉野地区・60代・女性】

●観光地として春夏の客に加え秋に集客を図るため、吉野山や吉野町内の山で、桜、杉植林地以外の場所を松茸山として整備するのはいかがでしょうか。松茸の発生・収穫方法は、今では解明されています。すでに他府県では、県を挙げて、松喰い虫抵抗性松苗を植えて、松茸生産に乗り出しているところもあります。今植えた苗では、20年後の収穫ですが、すでに植えられている松も手を入れることによって数年先の収穫を見込めるそうです。吉野町は森林に恵まれていますから、大阪の中心部から電車で、一時間余りの近場で、松茸が食べられる、又、松茸狩りが出来るとなれば、秋の吉野山も人で賑わうのではないのでしょうか。観光資源をより活用するためにも、吉野町を挙げて、この取り組みをしていただきたいと思います。

【吉野町に、町の取り組みとして、町で是非していただきたい事】

吉野のアカマツ生殖地に手を入れ整備することを町の取り組みとして真剣に考えていただきたいと思います。吉野町にとって、山は大きな資産です。町の面積の大半を山林が占めています。そ

の山を、観光目的で、又経済効果でも活性化できる一石二鳥のプランだと思うので、広報を使って町民の意識を深め、山林所有者、観光地を有する地元の青年たちやボランティア等を集め、説明会を開くなどして、関心を鼓舞し、年に数回の山の手入れで出来る松茸生産ですから、本腰を入れてやっていただきたく思います。

私も、弟の手を通して、松茸栽培の方法が載っている小冊子を読みました。その後ここ 2 年ほど、近隣の方に松茸栽培をしてみたら良いと思うと提案してきましたが、周辺の方はお年を召しておられるからでしょうか。あまり関心を示してはいただけませんでした。

しかし、私たちの世代で十分町民が満ち足りて食べる事が出来るほどの収穫は望めないでしょうが、観光客に吉野産松茸で呼び込むことのできるくらいの収穫は上がるようになるでしょう。吉野町の未来を考える時、町が豊かになるためには、今すぐに始められる、しかもあまり、町の貴重な収入である税金を使わなくても実行の可能な政策です。桜の手入れに立ちあがっているその延長線上で、松茸生産に取り組む事が出来ます。

必要なのは、人の動力と、松の苗だけです。

山の持ち主が町外に出ているのなら、山の整備をする代わりに借り受け、整備し、もし収穫が望めるようになって返してほしいなど言ってきた時には、収穫を折半するなど、あらかじめ後々の問題発生が無い様に当初に取り決めておけば、町内全域の松生育圏が対象となり、町の活性化にも、町の増収にも貢献すると思います。町も収益が上がれば、それをまた様々な事業への出費に回せますし、町自体が裕福にならないと町民の幸せはありません。また人口が減っても、見込める仕事や収益があれば、若い人たちが町から出て行く事は食い止められるでしょう。

【国栖地区・50代・女性】

●吉野町の産業の発展を考えて、吉野町の産物や伝統工芸品から材木や吉野産の木で出来た住宅まで、町外からの御尋ねがあれば、直ぐにどこにどのような商店会社、職人がいると即答できるような、案内所を作ります。その施設には、吉野町の書道家や、様々な作家達の作品展が常時開催されて、観光名所のコースの一つとなる施設にします。また常設で、工房作家たちの作品の展示即売も行います。

どこの観光地にも、ギャラリーや美術館がありますが、吉野町にはそのような施設がありません。

近隣の、市町村でも、どこへ行ってもその市町村のパンフレットやカタログが置いてあり、手に取る事が出来るのですが、吉野町には、それもあまり見られません。その事を少々悲しく思っておりました。

【吉野町に、町の取り組みとして、町で是非していただきたい事】

町の既存の施設で、この提案が実現できればと思っています。

町の産業や会社、工房等を総合的に案内できる案内所が出来れば、例えばオーダーメイドで、この様な物が欲しいと言ったようなお客様の要望にも、直ぐにご紹介して差しあげられます。町内の商店や、全ての企業、工房の製品内容とその規模、生産ラインの大きさ、価格など、掌握した施設になれば、お尋ねがあった時に、ただ、「こんな企業がありますよ。」という紹介だけでなく、企業に実際に取り次ぎ、商談の手助けまで出来る機能が備われば、町の産業にとって、大きな取引の可能性を秘めた施設になる事でしょう。

この施設は、町の企画政策課や、観光商工課といった課の仕事の一部を深く掘りさげ補佐する仕事でもあります。特に一般客は、例えば吉野檜の家にあこがれたとしましょう。憧れは秘めていても実際に買うとなるといろいろな不安もあり注文もどこへしたら良いか具体的には解りません。しかし床柱一本でも買う事が出来、家一軒丸ごとでも提案でき値段もあらかじめ提示することのできる様な機能を兼ね備えていれば、安心して相談が出来商談につながります。お箸も、個人客がまとめて沢山欲しい場合もあるでしょうし、お箸製作所の機能で、このようなものが作れないだろうかというような相談も持ち込まれるかもしれません。零細企業も多いですから、木工品にしても、お客様のオーダーに答える事のできる工房も、今はまだ町内にある事でしょう。お客様と町の産業を直接結ぶ事の出来る、その分野でパーフェクトな機能を持つ、町の出先機関の様な案内所をおつくりになる事を町にさせていただきたいのです。

案内所の活用を望むなら、観光客なども立ち寄るような施設に併設することが望ましいでしょう。それには、吉野美術館・工芸館といった、ギャラリー機能を持たせた施設がお勧めです。数カ月に一度もしくは年に一度の入れ替えで、吉野町内の寺院の宝物をお借りして展示するもよし、町内の書家や寺院の高僧に書いていただいた書でもよし、絵画でもよし、又工芸作品や、伝統産業の展示即売コーナーも併設すれば、吉野町に来た折立ち寄り、吉野の工芸家のご紹介も出来、作品も売れるでしょう。案内所にも気楽に入っていただく機会も作れます。

町の施設の中では、三茶屋が最もふさわしく思います。針のインターチェンジからの立ち寄り場所として、吉野に向かう時、または去る時に、再び吉野を振り返っていただく事が出来ます。「吉野山は芋の子を洗うようで、雑踏で花見もなにもすぐ終わったわ。」という感想を東京横浜方面から来た事のある方達の口から聞いたことが幾度かございます。吉野の良さや、地場産業まで、短い時間内に観光客が、吉野山の中で体験できるものではないでしょう。しかし、帰り道、吉野町のギャラリーに寄るなら、吉野町の美術品や工芸品に触れ、吉野割りばしの美しさや安全度にも驚き、安いので、割りばしのまとめ買いなどもして帰られるのではないのでしょうか。使ってみて、良いとなれば、帰られてからでもインターネット、メールでの注文が来る事でしょう。地元の工房作品コーナーでは、手作りの温かさにも触れていただく事も出来ます。また、吉野町の文化の深さにも触れていただく事が出来ます。そのようにして、地元吉野町の施設を、吉野町に益となる仕方で活用するのはいかがでしょうか。

吉野町の観光マップに、立ち寄り先として誇って載せることのできる施設にしてください。吉野町の施設は町民の財産です。吉野町民に益となる仕方で用いて下さい。

【国栖地区・50代・女性】

2. まちづくりに関する意見・提案

● 町民みんなでつくるまちづくり

住民と行政の情報を共有化し、地域自治組織など地域協働の体制をつくり、住民意識を高め地域活動の輪を広げる。

住民自治と地域協働の母体となる自治会などコミュニティ機能の強化と組織活動活性化を支援する。

【吉野地区・60代・男性】

● 活気のあるまちづくり

豊かな自然や特色ある歴史文化など生かした観光魅力づくりや交流事業を進め、各種体験交流企画、魅力ある味覚・土産物の提供、情報提供の強化を図り、観光関連産業を支援する。

林業の保全と資源・次世代の育成を支援する。

遊休農地の有効活用に貸出し等行政が主導的に進めていく。

各種スポーツ事業の充実、各地域の伝統芸能、文化活動への育成・支援を図る。

【吉野地区・60代・男性】

● 私立高校、大学・大学院、その関連施設である学生寮などの誘致

私立高校としては、独自の教育理念を持つユニークな学校。大学等の高等教育機関としては、生物学科、農学部、歴史、考古学、美術・造形などの学部や教室。

効果：若者人口の増加、学生人口増加による商店の活性化や下宿の運営、人材の確保・育成、デザイン性の高い木工製品やこだわりの農作物・食材の開発、大学・企業・自治体等が一体となった市民大学の開設などにより行政に頼らない自立した町民の育成、などの効果が考えられる。

【吉野地区・60代・女性】

● 田舎過ぎるから若者来ないし、出ていくから。

町並みのあき家を町がお金を負担し、提供してもっと明るく、にぎやかな町づくりを進めるべき。

似たりよつたりの店はもう時代遅れ。

(例) 食 ハンバーグ屋さん、オシャレなカフェ。若者が集まるようなエンターテイメントをできる場所。

まあ、田舎でも私はいいと思うし、吉野の魅力の一つだと思うけど…若者は嫌がりますね。吉野、仕事ないし、不便やし、何もないし。楽しければ全てよし。吉野すつきゃねん。

【吉野地区・20代・女性】

3. 医療・福祉に関する意見・提案

●シルバー人材センターの充実と仕事の拡大（特に山林ボランティア）

【上市地区・70代・男性】

●医療・福祉の充実したまちづくり

健康づくりに対する意識を高め、各年代に応じた保健事業の充実を進める。

多様な医療ニーズへの対応を進めるため、最低限の地域医療体制の確保住民相互で支え合う意識の高揚や福祉ボランティアの確保・育成などにより地域福祉の推進体制を図る。

子育て家庭や保育サービス・安全な子育て環境の整備のほか地域で子どもを守り育てる活動を推進し、安心して子供を産み、育てる環境づくりを支援していく。

退職者や高齢者のノウハウを活用・生かす施策を進め、併せて民間活力の育成・活用を支援する。

【吉野地区・60代・男性】

4. 安全・安心に関する意見・提案

●犯罪・災害からも安心して生活が出来るまちづくりを行政面からも取り組んでもらいたい。

私は吉野町の中心地である上市地区に在住していますが、ご存知のとおり上市地区も人口の減少で過疎化が続いています。そのため、まちの各所において空家・空地が増えていることで、いつ大きな犯罪や災害が起きても不思議ではないと思っています。

例えば犯罪での心配なのは今でも駐在所が無いことと、災害では避難する場所が見当たらないことが、いつも安心して生活出来る土地ではないことが問題だと思っています。

そこで将来のまちづくりの提言として、これら空家・空地に関わる地権者の方へまちの区画整理等に協力してもらえるように、行政と地権者、相方との協議を進めてもらいたい。そのためには私もこれらの計画については、全面的に協力させてもらいたいと思っています。また、整ったまちであれば、他所からの移住の方も期待できると思いますので、過疎対策にもなると思います。

【上市地区・70代・男性】

●安全・安心で暮らしやすいまちづくり

町内各地区の道路交通の円滑化と公共交通機関の利用増進と利便性の向上を図る。

情報通信網の整備拡充と有効利用に努め、情報の円滑化と住民サービスの向上を進める。

環境に配慮した下水道施設の完備と浄化槽普及への支援を図る。

省資源。循環型社会づくりに取り組みゴミの減量化とリサイクル活動に努めながら、やすらぎをもたらす公園の整備、景観や環境美化活動など豊かな自然と調和した生活環境の創出を進める。

防災対策を進め、消防・救急・救助体制の充実と災害の発生に備え、非常時の情報通信体制や災害機材・避難場所等の整備や災害弱者の支援体制の強化を図る。

交通安全や防犯に関する住民主体の取り組みを支援する。

【吉野地区・60代・男性】

5. 町政に関する意見・提案

- 自治体の行財政改革と職員の資質向上を今後も推進していく必要があります。

【吉野地区・60代・男性】

- 新総合計画では、町内の各地域を有機的に統合し、各地域の住民が文化的、経済的に活発に交流できるようにすることが望ましい。例えば、町内全域を視野に入れた観光ルートや各地域の特徴を生かした吉野町推奨物産の開発などに、吉野町民が各地域を越えて参画・協働できるような仕組みを行政が提案されることが望ましい。

【吉野地区・60代・女性】

6. 次世代育成に関する意見・提案

●次世代を育てる豊かな教育を目指すまちづくり

学校運営への地域住民の参加や地域教育資源の活用など地域と一体となった学校教育を取り入れ変化する社会に対応できる子どもや地域の課題に対応した教育を推進する。

【吉野地区・60代・男性】

